




令和4年1月31日

学位論文審査並びに最終試験結果報告書

大学院歯学研究科長 殿

主査 村田 勝 
副査 荒川 俊哉 
副査 根津 顕弘 

今般 Tubayesha Hassan 様にかかわる学位論文審査並びに最終試験を行い下記の結果を得たので報告する。

記




1 学位論文題目

The effects of human dentin phosphophoryn-derived RGD peptides
on human dental pulp stem cells *in-vitro*

- 2 論文要旨 別添
- 3 学位論文審査の要旨 別添（様式第12号）
- 4 最終試験の要旨 別添（様式第13号）

以上の結果 Tubayesha Hassan 様は、博士（歯学）の学位を授与する資格のものと判定する。

学位論文審査の要旨

主査 村田 勝 
副査 荒川 俊哉 
副査 根津 顕弘 




氏 名 Tubayesha Hassan

学位論文題目 The effects of human dentin phosphophoryn-derived RGD peptides
on human dental pulp stem cells *in-vitro*

2021年11月1日提出された学位論文の主査と副査が11月10日に決定され審査が開始された。
12月6日リハビリテーション学部会議室において、谷村教授(歯科薬理学)同席のもと院生と面談討議会が
なされた。学位審査員3人から提出論文に対する質問・助言が英語でなされ、議論すると共に査読用紙が
渡された。査読(ラウンド1)のメジャーコメントは統計分析の修正であった。有意差検定の表記が不適
切であった。再提出された論文の再査読(ラウンド2)以降は、Covid-19 感染拡大のため全てメールで
の書面討議にした。緒言と議論のbrush up が特に必要であり、また本研究は human DPP-derived RGD
peptides とhuman dental pulp stem cellsを使用している点が動物由来実験より優位であるためタイト
ルに humanを入れるように変更が指示された。再々査読(ラウンド3)では文法の誤りや表現を修正し、
English proofreading 会社による校正も終了した。Ms. Tubayesha Hassan 院生は、審査員の助言をもと
に論文を的確に修正できた。

以上のプロセスを経て、令和4年(2022年)1月31日本学学位論文に相当するものと判断して、審査を終
了した。

最終試験（学力の確認）の要旨

主査 村田 勝 
副査 荒川 俊哉 
副査 根津 勇弘 

氏 名 Tubayesha Hassan

大学院4年の Tubayesha Hassan 様は、学位論文を提出して審査を受ける要件を満たしていた。

2021年12月6日学位審査員3人との面談試験時の英語での議論内容やその後の質疑・助言に対する迅速な論文修正から学位に値する知識・学力を満たしているものと評価した。

今後は応用のための動物実験や実用化を視野に入れたRGD peptide delivery system に対する知識の向上と実施を期待したい。